



平成 21 年 3 月 10 日

各 位

グラウンド・ファイナンシャル・アドバイザー株式会社
代表取締役 佐藤 明彦
(JASDAQ・コード番号：8783)
問い合わせ先 取締役 平野 公久
電話 03-5532-1031

平成 21 年 3 月期 通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想につきまして、平成 20 年 10 月 21 日付「特別損失の発生及び平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. (単位：百万円)

平成 21 年 3 月期 通期業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	190	0	2	▲32	円 銭 ▲2,080.26
今回修正 (B)	108	▲78	▲76	▲108	▲6,972.52
増減額 (B-A)	▲82	▲78	▲78	▲76	—
増減率	▲43.2%	—%	—%	—%	—

2. 業績修正の理由

不動産業界におきましては、第 3 四半期以降も引き続き、サブプライム・ローン問題に端を発する世界的な金融市場の混乱及び信用収縮等の影響による金融機関の融資姿勢の厳格化、国内不動産関連会社の相次ぐ経営破綻などにより、国内の不動産投資市場は収縮し、不動産売買件数が著しく低下するなど、証券化手法によるファイナンス案件の需要は停滞しました。

このような状況下において、当第 3 四半期以降、主要業務であるストラクチャリング業務収益は、例年、一定程度の組成がある年度末案件が受注できないことにより収益計上が見込めず、また新規クライアント獲得も進捗がなく、大幅な落ち込みとなる見込みです。これにより、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益については、業績予想を下回る見込みです。

営業収益につきましては、見込んでいた第 3 四半期以降のストラクチャリング業務収益の受注が困難となったため、通期予想を 108 百万円に修正いたします。

利益面につきましては、人件費関連費用およびストラクチャリング業務関連費用を中心に、営業費用に係る当初予想を下回る見込みですが、上述のとおり営業収益の減少により、営業利益、経常利益、当期純利益の通期予想をそれぞれ修正いたします。

今後、新規案件の組成ニーズが回復するには、信用収縮が続く現況の金融情勢が大きく改善することが必要であり、それには一定度の時間を要するものと見込んでおります。他方、既に実行されたファイナンス案件に関するリファイナンス・ニーズは今後増加することが見込まれます。このようなリファイナンスのニーズを捉え、投資家の投資ニーズとの調整を図った上で、ファイナンス・スキームを組み直す業務に重点を置き、ストラクチャリング業務の獲得を目指して参ります。

3. 配当金修正の内容

(基準日)	第2四半期末	期末	年間
前回予想 (平成20年10月21日発表)	円 銭 0.00	円 銭 1,000.00	円 銭 1,000.00
今回修正予想	—	500.00	500.00
当期実績	0.00	—	—
前期(平成20年3月期)実績	0.00	1,000.00	1,000.00

4. 配当修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を重要な課題と認識しており、事業基盤の強化と事業展開に必要な内部留保の充実を考慮しつつ、利益の成長に応じた利益還元を行なうことを基本方針としております。この方針のもと、配当につきましては、財務状況及び業績等を総合的に勘案しつつ株主資本配当率を参照指標として安定的に行なうこととし、当期の期末配当予想を1株当たり1,000円と発表して参りましたが、前述のとおり当期業績につきましては、予算未達となる見込みとなったため、配当予想を減額修正いたします。

5. ご参考：前期の実績（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	純利益
中間期	192	96	97	57
通期	270	80	82	48

*1株当たり期末配当金：1,000円

(注) 上記の業績予想は、現時点での入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上